

教科・分野	週時間数	クラス		担当者
数学B	2	B・C・D・E		大西・林
目 標	ベクトルの分野…図形的に導入されたベクトルに、和・実数倍、内積を導入し、図形の問題をベクトルを用いて代数的に解くことを学ばせる。このような、数学独特の概念の移し替えにより、ある分野の難しい問題が別の分野で易しく解けるようになることを学ばせる。 数列の分野……自然数のもつ性質に依存する珍しい分野であり、具体性を実感させる。			
大切に育てたいもの	関心	考え方	表現	理解
	数や式以外にも演算が導入できるものがあることを学ぶ。数列感覚を呼びおこす。	図形の問題が、ベクトルを利用することで、代数的に処理できるという、概念の移し替えを学ぶ。観察→推定→証明という考え方を学ぶ。	図形的な表現がベクトルの言葉を用いて表現する事ができる。 Σ 記号に慣れる。	図形と方程式(数学Ⅱ)の分野の拡張概念として全体像をつかむ。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	第1章 平面上のベクトル 「1. ベクトル」から 「4. ベクトルの内積」まで	図形的な観点からのベクトルの演算、および数量的にベクトルをとらえた観点からの成分、内積などを理解させる。
	期末	第1章 平面上のベクトル 「4. ベクトルの内積」から 「7. 図形のベクトルによる表示」まで	位置ベクトルを導入し、図形の応用問題を解く。
二学期	中間	第2章 空間のベクトル 「1. 空間の点」から 「6. 座標空間における図形」まで	空間ベクトルの基本的な公式を扱う。(平面ベクトルと同様に計算できることを意識させる) 理論的には平面と同じであるが、空間図形のため視覚的にとらえることが困難になる。成分、内積など数量的に処理できる場合は、数量的に処理していく。
	期末	第3章 数列 「1. 数列と一般項」から 「6. 和の記号 Σ 」まで	等差数列, 等比数列の導入を丁寧に行う。 Σ 計算が確実にできるようにする。
三学期	期末	第3章 数列 「7. 階差数列」から 「10. 数学的帰納法」まで	Σ 計算はできても、階差数列から途端にわからなくなる生徒が増えてくることが予想される。丁寧な説明や繰り返し問題を解くことで理解を深めさせたい。
評 価 の 方 法		定期考査, その他のテスト, 提出物,	
学習活動の特徴		一斉授業→提出課題→小テスト→再テストなど, <small>ゼータ</small> ステップで指導する。	
授 業 の 形 態		講義形式	
使 用 教 科 書		「高等学校 数学B」(数研出版)	
使 用 副 教 材		「4ページ 数学Ⅱ+B」, 「Focus <small>ゼータ</small> 数学Ⅱ+B」(啓林館)	
用 意 す る も の		教科書, ノート, 4ページの完成ノート	